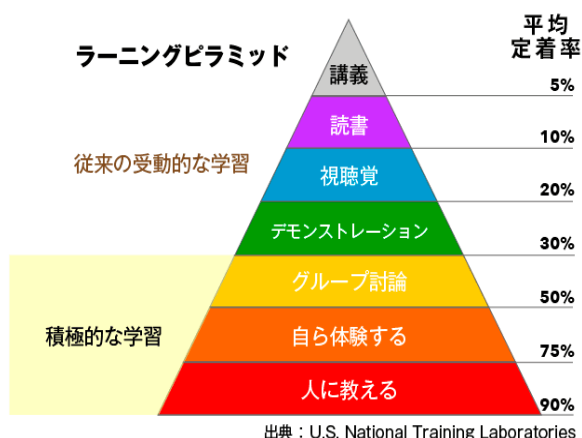


「学校再開から2週間」～新しい一歩を踏み出すために～

- マスクの着用をはじめ、こまめな検温・手洗い・うがい、教室の換気や消毒など、全校で「新型コロナウイルス予防大作戦！」を展開していました。また、毎日学部ごとにグラウンドや体育館でラジオ体操やランニングをしました。更に、ウイルスを寄せ付けない免疫力を高めるためには、適度の運動と明るい笑顔が有効であることから、朝の時間を利用した学級独自の「元気アップ体操」を取り入れたり、みんなで笑顔で挨拶をしたりすることにも挑戦しました。保護者の皆さんには「三つの密」を避けるために自家用車で送迎するなど、今できる対応策をお願いしました。しかし、緊急事態宣言の対象が全国に拡大したことを受けて、4月21日（火）から5月6日（水）まで臨時休業措置となりました。



- 学校が再開し、在校生は進級の喜びとともに新しい目標に向かって頑張ろうと張り切っていました。新入生は新しい環境に慣れ、「ここは楽しく学べる場」であると感じてきた時期でした。中には「今日から学級委員長になりました」とうれしそうに教えてくれる子ども、学級で大好きな金魚を飼うことが登校のモチベーションになった子ども、保護者の送迎から自力登校の練習を始めた子どもなど、新しい一歩を踏み始めたばかりでした。また、保護者と学級担任との面談もスタートし、子どもの情報交換を通してお互いの信頼関係を築く大切な時期でもありました。今は一日も早く非常事態が終息し、子どもたちがなりたい自分に挑戦できるような日々が訪れることを祈るだけです。そのために不要不急の外出の自粛等、一人一人が危機意識をもって、できることを実施する必要があります。



- 先週、高等部では作業学習のオリエンテーションを行いました。昨年度の経験者でもあり、県北地区技能競技大会で優勝した実績のある二人の生徒が先生役として、窓の拭き方や接客の仕方を説明しました。左図は学習の定着率を示したものです。人に教えるは、90%と一番高い定着率です。これまでの体験を基に、仲間に説明する二人の生徒が光っていた理由が分かりました。人は教えられたことは

すぐ忘れませんが、自分で気付いたことはなかなか忘れません。これまでかつの校では、視覚支援や体験を重視する学習を多く取り入れていましたが、これからは子どもたちが自分で気付いて主体的に学べる仕掛けと、仲間と一緒に対話しながら課題解決を図る場面を設定して、学んだことを実際場面で活用できる「本物の力」を付けたいと考えています。